



学校だより

<http://fussa-3e.hs.fussa.school/>

令和5年11月30日
福生市立福生第三小学校
校長：浅倉 宏之
住所：福生市牛浜162
電話：551-0249

幼保小の連携と子供たちの成長

副校長 西村 学徳

昨年度の2月の展覧会の時のことです。私が展示会場の体育館にいますと、会場にいらした一人の来校者の方から声をかけられました。

「三小の先生ですか？うちの子、4月から三小に入学するんですけど、これまで『小学校に行くのがこわいから、1年生にはなりたくない。』って、ずっと言っていたんです。だけど、この前の1年生との交流会の後から、『1年生になるのが楽しみ。』と言うようになったんです。交流会がすごく楽しかったようです。ありがとうございました。」

昨年度の展覧会では、近隣の3園の園児と1年生が合同制作を行ったので、例年以上に園の保護者の方も多く来校されていました。私に声をかけてくださったのは、その中の一人の保護者の方だと思います。この言葉をいただき、私は本当に嬉しく思いました。なぜなら、この園児の言葉こそが、三小の幼保小連携のねらいの1つだったからです。

三小は、コロナ禍前から近隣の3園との交流を続けてきました。コロナ禍で、児童が直接関わる交流ができなくても、映像や作品での交流を続けてきました。そして、昨年度の合同作品制作と、一步一步着実に幼保小の交流を進展させてきています。

今年度も10月末に1年生と3園の園児の交流会を行いました。1年生の子供たちは生活科の学習で作った手作りのおもちゃで園児をもてなしました。園児たちに楽しんでもらおうと、一生懸命に遊び方の説明をしたり、優しく声をかけたりしている姿が見られ、交流会後も充実感いっぱいの表情でした。小学校では、最年少ということもあり、上級生のお世話を受けることの多い1年生ですが、この日は年長者として立派なふるまいが見られ、大きな成長を感じました。園の子供たちからは「分からないことがあった時に、お兄さん・お姉さんが教えてくれて安心した。」「最初は緊張したけれど、楽しかった。」等の嬉しい感想をもらうこともできました。

また、今年度は新たに5年生と3園の園児の交流会も11月末に行いました。来年度入学してくる5歳児クラスの園児と、来年度最高学年となる現5年生。来年度のスタート時は、直接関わるのが特に多い子供たちです。5年生にとっても、最高学年に向けての意識を高める上でよい交流会となりました。校種を越えた交流のよさが、これらの交流会では確実に見られています。



子供たちだけでなく、幼保小担当の教職員同士も互いに授業や子供たちの生活の様子、施設等の環境整備の様子を参観し合い、積極的に意見交流を行っています。子供たちにとってより良い学びや学校生活の充実につなげていくために、また、「幼保から小へ」の接続を円滑にしていくために、どのような指導や支援が必要なのかを、今後も幼稚園・保育園・子ども園と連携を図りながら、考えていきたいと思えます。